

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄
 No. A-66

【様式 2】

部門名: カリキュラム・マネジメント実践部門	エントリー名: 登米市立佐沼小学校 千葉 紳 平成 30 年度第 3 回中堅教員研修
活動名: 学力向上への組織的取組 ～「MATH T」で広げる授業改善～ 主タイトル (12 文字以内) 副タイトル (16 文字以内)	
解決すべき課題: 市内小・中学校児童生徒の学力向上 登米市教育研究所の研究者として、市内の児童生徒の全国学力・学習状況調査から学習内容の定着度に関する傾向と課題、意識調査から見える傾向と課題を明確にするために分析を行った。その結果、市全体で同じ方向性をもって児童生徒の学力向上に取り組んでいく必要性が明らかになった。そこで、学力向上のための授業改善プランを示し、リーフレットや研修会等でそれを広めていくことで授業改善と児童生徒の学力向上を目指すこととした。 授業改善プランの作成に当たっては、第 3 回中堅教員研修で学んだ「学校組織マネジメント」の手法を取り入れ、市内児童生徒の学力向上という目的を達成するための戦略、戦術の立案に生かした。	
目標・方針: 1 目標 市内小中学校の児童生徒の学力向上 2 計画 ①現状の分析 (全国学力・学習状況調査、市学力調査・意識調査)、②学力先進地域の実践、文献の分析、市内各校の取組の調査、③学力向上対策プランの策定・リーフレットの作成、④啓発活動、実践、⑤評価・分析、改善 3 戦略と戦術 ①小中が同じ方向性で授業づくりを実施⇒市内統一の学力向上指針を示す ②各学校が実態に合わせた授業改善のサイクルを実践⇒分析と対策、実践のサイクル化 ③実践事例の収集、啓発活動⇒実践事例の共有、成果と課題の分析・改善による PDCA サイクル推進	
活動内容: 1 登米市教育研究所研究者としての活動 ・登米市教育研究所の研究者として、本市の児童生徒の実態を分析し、強みと弱みを明らかにする。 ・先進校の実践事例、各種文献を分析し、本市の学校課題に応じた授業づくりプランをまとめる。 ・市内各校の学力向上に関わる取組や家庭学習への取組について実践事例をまとめる。 ・研究所発表会で研究内容を発表し、作成したリーフレットを市内全教員に配布する。 2 宮城県東部教育事務所教科等指導員、研修会講師としての活動 ・指導主事学校訪問における授業づくりの助言 ・管内の研修会における算数の授業づくりに関する提案 3 所属校・学力向上担当としての活動 ・校内学力向上研修会の実施 (児童の実態の分析方法の提示) ・学力向上対策の提案と実行状況に対する分析と助言 ・校内の担任による学力向上対策プラン作成の支援	
活動の成果: ・「学校組織マネジメント」で学んだことを登米市教育研究所の授業づくりプランに反映し、それを周知するリーフレットを市内全教員に配布することで、小中学校が同じ方向性で授業づくりに取り組む一助となった。 ・校内学力向上担当として、全担任に分析・対策を立案してもらい、日々の授業改善に取り組んだ結果、全国学力・学習状況調査の成績が向上した。今年度は担当が変わったが、昨年度の成果を今年度の担当に引き継ぎ、授業改善を続けていきたい。 ・研修会講師、指導主事訪問の助言の際、授業プランにまとめた理論をベースにして授業改善に向けた助言を行った。市内統一の指針を今後も広めていくことで市内、管内の授業改善につなげていきたい。	
アピールポイント (アイディアや工夫): ・市内の学校、児童生徒の現状を分析した上で課題解決のための授業づくりプランを考えたこと。 ・市内の全教員に配布するリーフレットを作成し、市内統一の授業づくりの方向性を示したこと。 ・指針を基にして各学校、各学級担任が授業づくりを行うとともに、その実践事例の共有、成果と課題の分析を蓄積していくことで PDCA サイクルが生まれ、児童生徒の学力向上につながると考える。	

図 1 学力向上・授業改善マネジメントのイメージ (現状とビジョンと戦略)

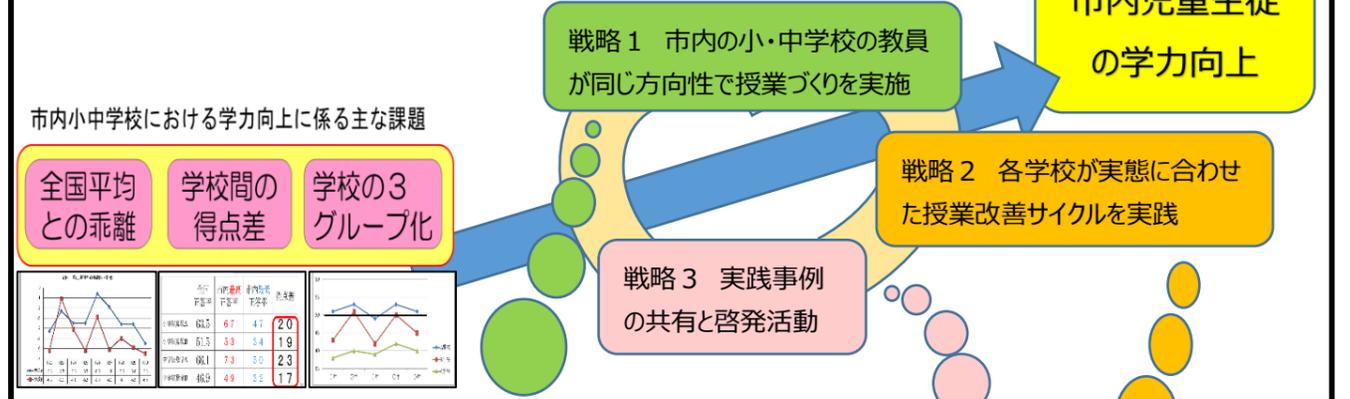


図 2 戦術 1 市内小・中学校統一の学力向上指針【MATH T】の作成・配布

このリーフレットは、登米市教育研究所算数・数学部会で作成した。作成に当たっては、SWOT分析で登米市の児童・生徒の実態を分析し、課題解決の方策をA3表裏にまとめたものである。市内全教職員に配布し、小中で共通理解を図って授業づくりを進めている。

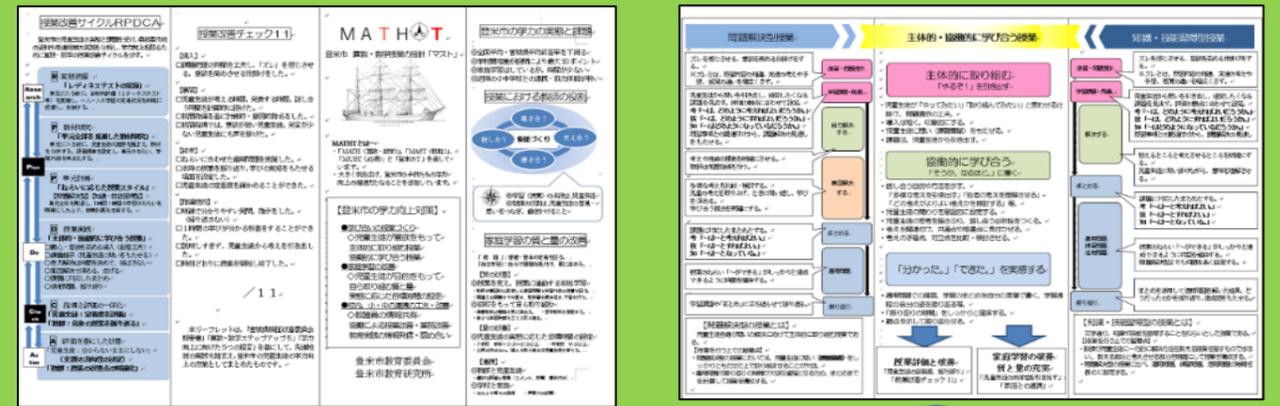


図 3 戦術 2 各学校における実践

【MATH T】の授業づくりの指針を基にして、各学校で実践を進めている。本校では、校内学力向上研修会を実施し、全国学力・学習状況調査、標準学力調査の分析手法の研修を行い、全学級担任に結果分析と今後の取組を作成した上で、授業づくりを進めている。授業のアイデア等について学力向上だよりで周知を図った。

<p>標準学力調査 結果の分析と今後の取組 ●年△組</p> <p>学級平均と全国平均との比較 (比較標準を以て基準 → 全国平均・学級平均)</p> <table border="1"> <tr> <th>学年</th> <th>国語</th> <th>算数</th> <th>英語</th> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>+1.2</td> <td>+3.7</td> <td>+8.9</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>+1.9</td> <td>+3.3</td> <td>+1.1</td> </tr> </table> <p>【国語】 ○読むことに関する課題がある。特に物語文の心情理解と構図の理解を苦手としている。 ○英語の漢字を覚えることと英語を正しく使うことを苦手としている。 (年度末の授業の姿) 物語に出てくる登場人物の心情や構図を正しく読み取るようにする。 (手段で これを実施していきます) 授業 読み聞かせ・読書指導等 算数学習 物語の読みかたを指導し、読み取りの力を伸ばす。 物語の読みかたを指導し、読み取りの力を伸ばす。また、いろいろな文章問題に挑戦できるように指導する。</p> <p>【算数】 ○割合の計算で、算数、比較量について考え、割合を正しく理解できている。 ○比の比の後の課題で、正しい比の正しい比の方を理解できていない。 (年度末の授業の姿) 数値を使って、割合の問題を正しく解くことができるようにする。 (手段で これを実施していきます) 授業 読み聞かせ・読書指導等 算数学習 割合の読みかたを指導し、割合の読みかたを指導し、読み取りの力を伸ばす。また、いろいろな文章問題に挑戦できるように指導する。</p>	学年	国語	算数	英語	小学5年	+1.2	+3.7	+8.9	小学6年	+1.9	+3.3	+1.1	<p>学力向上・授業改善マネジメント【国語】【算数】</p> <p>【国語】 ○読解力・活用力を高める ○授業実践 ○中級程度以上の学習</p> <p>【算数】 ○割合の読みかたを指導し、割合の読みかたを指導し、読み取りの力を伸ばす。また、いろいろな文章問題に挑戦できるように指導する。</p> <p>PDCA サイクル</p> <table border="1"> <tr> <th>状況</th> <th>学習者の課題</th> <th>実行した改善策(実践)</th> </tr> <tr> <td>現状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	状況	学習者の課題	実行した改善策(実践)	現状			改善策			評価		
学年	国語	算数	英語																						
小学5年	+1.2	+3.7	+8.9																						
小学6年	+1.9	+3.3	+1.1																						
状況	学習者の課題	実行した改善策(実践)																							
現状																									
改善策																									
評価																									

戦術 3 研修会等での啓発

宮城県東部教育事務所管内学力向上指導員、登米市教育研究所研究者として、研修会等で授業づくりについての発表や助言を行った。リーフレットを配布しただけでは、授業づくりについての共通理解を図る上では不十分である。学力向上指定校との連携等も図りながら、市内教職員が同じ方向性をもって授業づくりに取り組んでいけるように努めていきたい。

